

「文化・史跡をいかした地域活性化」地域再生と平松城の整備事業 橋野連合会 末吉町南之郷橋野

県道 109 号線の末吉櫓から橋野へ向かう途中の坂道の左側に、中世山城である市文化財指定の平松城跡があります。周辺には文化財が豊富で平季墓の墓や無形文化財の鎌踊りもその一つ、これらを後世につないでいきたいという熱い意気込みで地域づくりをされている橋野連合会をご紹介します。

この連合会の歴史は古く、大正 4 年に創設されたことがわかる資料が存在しており、昭和 36 年には連合会規約が作られ、末吉橋野に居住する者の隣保共助と親和を図り、地域振興及び自治会間の連絡を密にし、町の発展に寄与することとしています。

現在、橋野連合会は地区民 200 数名で構成、1 年を通して地区の文化財を守りながら、6 月灯、六地藏馬頭観音祭、無形文化財鎌踊りの伝承、若一王子神社境内清掃等の活動に全員が関わっておられます。

本年度、協働のまちづくりを推進する県の地域協働の仕組みづくり助成事業*に応募、文化・史跡を活かした地域活性化をテーマに『地域再生と平松城の整備事業』が選考決定を受け、荒廃した山城の整備を開始されました。文化の再認識と郷土愛を深めながら地域住民総力で地域再生に精力的に取り組む、登城口・出入口から平松城主郭（城の中心となる曲輪）跡地まで約 700 m の草が生い茂った林道は、地権者の同意を得ながら砂利を敷くなどの整備をし、主郭跡を整備する際には雑木等で荒廃した中に自生していた藤の幹を活かして藤棚を設置、また県道 109 号線沿い等案内板を、主郭跡には歴史の概要をまとめた看板も設置されました。

10 月 31 日に開催された陣之山平松城開山式には多数の会員が参加、粛々と神事が執り行われました。

引き続き、東部地区青少年館へ会場を移し、鹿児島国際大学短期大学部名誉教授の三木靖先生の「平松城の歴史」講演会に子どもから大人まで 130 名の人達が興味深く聞き入っていました。講演の中で、平松城は 14 世紀から 260 年間日向大隅国堺の合戦（国合原）の際に陣が置かれた城で、城主の資料等は決して多くは無いが、中世の頃、橋野周辺の南之郷地域の人々が山城と大淀川の地形を活かし、この地域で働き、生活し、非常時に難を逃れる場所として築いたものと紹介されました。空堀など保存の状態で良く、地域の歴史的な文化財として、高い価値があり、築城後 411 年もの歴史を経て、“私たちの古城”と再びよみがえらせる山城再生の今回の取組に山城に替わって地域の皆様にお礼申し上げます、と感謝の言葉で講演を閉じられました。

同連合会長の西村哲美氏は、「口蹄疫の発生で開山式・講演会を延期し、心配していましたが、今日無事に催すことができました。まだまだ山城再生の途中ではありますが、今後の計画として、主郭跡に桜の木を植樹し、地域住民のための健康づくりウォーキングコースとして大淀川の堤と陣之山を一周出来る遊歩道整備に地域の皆と検討し、取り組んで参りたい。」と語っておられます。

※県の補助事業

地域協働の仕組みづくり事業

市報そお 2009 / 5 / 1 vol22 で詳しく紹介あり毎年募集期日等は変わります。



県道 109 号線沿いに整備された
大手門入口



開山式の様子



山城の築城を語る三木先生の話に
聞き入る地域の人達